



LETTER FROM COPENHAGEN

コペンハーゲン通信

PART III

◀見守りロボット「ロボリア」
のプレスカンファレンス



デンマーク王国 DATA

人口554万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ
(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。
「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉
先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・
家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

当会事務局職員が、2007年1月より在
デンマーク日本大使館に出向していま
す。国際競争力や人々の幸福度で高い評
価を受けるデンマークからの現地報告
を不定期にお届けします。

日本とデンマークの ロボット技術協力

デンマークでは、日本と同様に少子・高齢化が進んでおり、医療・ライフサイエンス分野においても労働力不足が深刻になっています。加えてサービスの質的向上も重要な課題です。これらの課題に対する問題意識の高まりから、デンマークは、科学技術分野での先端技術、特にロボット技術の活用に対する意欲・関心が高くなっています。2008年夏、デンマーク第3の都市であるオーデンセ市が、日本の筑波大学発のベンチャー企業により開発されたロボットスーツ「HAL」の実証開発・研究の開始を決定したのを皮切りに、日本のさまざまな福祉関連のロボット技術の実証実験が行われるようになりました。

まず、デンマーク技術研究所を通して産業技術総合研究所で開発されたアザラシロボット「パロ」の実証実験が行われ、現在では利用のためのライセンス、訓練・教育も含め、この研究所に販売委託されています。また、大阪大学の石黒教授が開発した人型ロボット「テレノイド」は、フュン島南に位置するスベンボーという町で実証実験が行われ、障害者、高齢者、児童福祉分野等で良い影響があるとの一定の効果が証明されたため、より多額の助成金を得て、実用化に向けたプロジェクトが進められることになりました。

企業ではパナソニックのベッドから車いすに変身するロボットベッドの実証実験が、デンマーク第2、第3の都市であるオーフス市、オーデンセ市のスーパーホスピタル(合理化・効率化が徹底され、ロボット等の最先端テクノロジーの導入にも積極的な病院)で行われています。そのほか、次世代ロボット産業クラスター形成の戦略的推進拠点としてロボット関連企業が所属している大阪市の「ロボットラボラトリー」や見守りロボットなどを開発した「テムザッ

ク」(福岡県宗像市)等もデンマークと協力関係にあり、今後もこうした動きが広がっていくのではないかと思います。

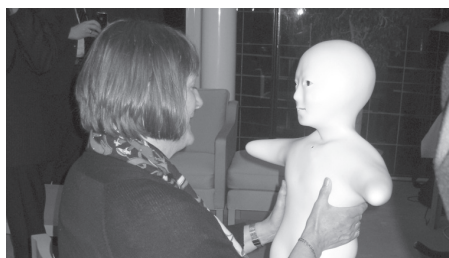
では、なぜ日本の技術をデンマークで実証実験するのでしょうか。いくつか理由はあると思いますが、一つには、技術に強い日本と福祉サービスに強いデンマークが協力し合うことでお互いの強みを活かした開発が進められると考えているからではないかと思います。デンマークでは、自国の規模を考慮した場合、ロボット技術の開発は難しいと認識しており、有用な技術を外部から取り入れることに積極的です。他方、サービスについては福祉立国としての自負があるため、そのサービスと日本の技術とを合わせてパッケージ化し、これを商品化しようと考えているのです。

また、デンマークの福祉はサービスも含め主に地方自治体で実施されるため、労働力不足を深刻に受け止めており、ロボットを活用した省力化技術等への関心が強いようです。特に高齢者ができるだけ長く自宅で生活することへの支援を基本方針としていることから、ロボットの実証実験等に積極的な地方自治体が少なくありません。地方自治体がかかわっていることから助成金を受けられる確率が高く、実証実験で効果が認められれば実用化に向けてのプロセスがスムーズに行われるなど、日本から見てもメリットは多くあるのです。



住田 智子

在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向中)



人型ロボット「テレノイド」のデモン
ストレーション